

第30回移住者インタビュー

『人と人をつなげる「真ん中の人」になりたい』

特定非営利活動法人 SET 佐々木 里樹 さん



佐々木 里樹（ささき りき）さん

秋田県出身

特定非営利活動法人 SET

インタビュー実施日：2022年9月6日

—御出身はどちらでしょうか。

秋田県横手市出身です。

—移住をしようと思ったきっかけを教えてください。

群馬の大学を卒業後、東京の IT 会社に就職しました。ですが、ちょうどコロナ禍の時期と被ってしまい、すべてオンラインでの仕事となりました。働いているのに人とのつながりが感じられず、次第に自分の中で苦しくなっていました。それで「辞めようかな」と考えていたタイミングで、特定非営利活動法人 SET（以下、SET）の方から「一緒に働かないか」と声をかけていただき、転職を決めて、それと同時に移住につながりました。

—学生の頃から SET と関わりがあったのですか。

そうです。大学生の頃、この SET で実施しているプログラムに参加したり、逆にプログラム運営のスタッフとして携わったりしていました。そのつながりから声をかけていただきました。

—佐々木さんと SET がつながったきっかけは何ですか。

大学時代にアルバイト先で一緒に働いていた子が、SET のまちづくりに関するプログラムに参加していて、月に 1 回くらい陸前高田に行って活動していたんです。その子に「もしまちづくりとかに興味があったら一緒にやらない？」って誘われたのがきっかけですね。

僕自身、もともとまちづくりの分野に興味がありました。出身である秋田県横手市もなかなかの過疎地で、ずっとそこで育ってきたから地方に対する課題感や、どうすれば地元がもっと盛り上がるだろうか、みたいな風に高校生の頃から漠然と考えていました。それで、起業したら盛り上げられるんじゃないかと思い、そのための勉強として、大学は経済学部に進学しました。そこで身に付けた知識や、東京の IT 会社で働いて身に付けたスキルなどを生かして、地元に戻って盛り上げられたらという思いがあります。

ただ、高田から完全に抜けて秋田に戻る、というのは思い描けていないです。高田にも自分の仕事や関わり方があるので、秋田でも高田でも活動できるようなかたちでもいいのかと思ってます。

—移住をされるまでにどのような準備をされてきましたか。

準備は特に何もしていませんね。

準備というより気持ちの面で言うと、第一に、SET での活動を通して、自分の中でずっとやりたいと思っていたまちづくりを仕事にできて、自分の好きなことをしながら働けるっていうふうに思ったら、もうそれが本当に楽しみでしょうがなかったです。

それから、この SET で働いている人たちがみんな本当に大好きだったので、この人たちと一緒に働けるというのが嬉しかったです。

「楽しみ」と「嬉しい」というポジティブな思いがほとんどで、そこまで何か重い決断とか覚悟とかをしてきたかという、僕はあんまりそうではなくて。自分の感情に素直に従おうと思って動けた感じはありますね。

家族に移住することを伝えたときは、やっぱり不安というか、すんなり OK とはいかなかったんですけど、それでも最終的には「自分の好きなことをやりな」っていうふうに背中を押してくれました。大学進学するときも就職のときも、自分の気持ちを尊重して好きに決めさせてくれたので、家族には本当に感謝しかありません。

—御家族の支えもありつつ、SET という存在が佐々木さんの活動の軸になっていたことが、移住の決め手になったんですね。

そうですね。大学3年の頃からずっと SET で活動してきたので、SET が高田にあるからっていうのが、僕がここに移住してきた決め手ですね。SET は僕と高田をつなぎ合わせてくれました。

—移住をしたのはいつからですか。

2022年の2月頭です。ですので、結構最近です。

—現在のお住まいについて教えてください。

SET で今働いている人たちは、ほとんどがシェアハウスで生活しています。何軒か古民家を借りて、生活インフラを整えてやっています。僕が住んでいるのは黒崎仙峡温泉の近くのところにあって、そこでは僕含め男女合わせて6人で生活しています。シェアハウスは広田町周辺に全部で4～5軒ほどあります。

東京では一人暮らしだったので、最初はやっぱり他の人と一緒に暮らせるのか不安でした。でも、例えば、一緒にご飯を食べる人がいたり、逆に自分の作ったご飯を食べてくれる人がいたりするので寂しさは感じないですし、もちろんそれぞれの部屋もあるので自分のプライベートの時間もちゃんと確保できます。いろいろ工夫は必要ですけど、家ごとで独自のルールを決めるなど、よりみんなが楽しく暮らしやすい環境を作っていこうっていうスタンスで考えているのが、普通に暮らしていて素敵だなと思います。

僕の住むハウス内では、メンバー間で家事の分担などは特に決めていません。みんながみんな同じことをしているわけではなく、その人の仕事があって、その人の生活リズムがあるので、ハウスにいる間、全員が全員同じ時間を共有しているわけではありません。でも、例えば、自分が料理したとき、他のメンバーを思ってちょっと余分に作って食べさせたり、逆に仕事から帰ってきたら「これ食べていいよ」って自分の分が作ってあったりすると、すごい温もりを感じますね。それがまたシェアハウスの良いところだと思います。

—陸前高田市で生活してみて何か感じたことはありますか。

僕の言葉で言うと、こちらに移住してから「人間性が回復した」と感じています。

東京だと、すべてが満たされているし、1人で生きていけるし、不便がない。どこかに行こうと思っても、駅まで行って電車に乗ってしまえば、何も調べずにどこへでも行けるし、スーパーや食べ物屋さんなどがあふれていて1人でも生きていけたなって思うんですけど、こちらだとやっぱりなかなかそうにもいなくて。移動だったりとか食事だったりとか、何にしたって不便さみたいなものがあって、本当の意味で1人で暮らしていくのは難しいと思います。

だからこそ、不便な生活の中でどういう工夫をしたらうまくいくかなと考えるようになりました。自分の中でそういう工夫をしていると、「自分らしいやり方」を見つけられて、それが面白いですね。生活の中で工夫するようになって、自分の力で生きようとしているのを感じられるようになりました。今あるものに対して、すごく感謝するようにもなりました。

—具体的にどういったことを工夫するようになったのでしょうか。

例えば、「お裾分け」っていう文化も工夫の一つだと思います。地域の人からたくさんの野菜や海産物をいただくことがあって。だけど、どうしても自分一人では消費し切れないときがあるわけで、そんなときは、地域のほかの方やSETのメンバーに声をかけてあげています。そうすると、今度はその人からまた別のものをいただくこともあります。こうやって、どんどんつながっていき支え合っていく文化がお裾分けだと思います。自分が何かを生産しているわけじゃないので、だからこそ、そんな自分に何ができて言うのと、困っている人を助けてあげることだと思います。そうやって手助けをしていけば、野菜やご飯をいただけるっていう、何かお互いにそういうふうを支え合って人同士がつながれる、良いきっかけになっていると感じますね。

—「人とのつながり」で言うと、今回、佐々木さんを御紹介いただいた大船渡市の白山小麦さん(第29回移住者インタビュー)とは、どういうきっかけで知り合われたのでしょうか。

小麦さんとのつながり方は面白かったですね。共通の友人がいて、その友人を通して出会いました。東京にいる友人が高田に来ることになり、一緒に遊ぼうってことになったんですけど、その友人が「岡山で出会って、今大船渡で住んでいる友達がいるから、せっかくだからその子にも声かけよう」ってことで出会ったのが小麦さんでした。本当に人が人をつなげてくれた感じです。

小麦さんとの出会いをきっかけに、他の移住者の方ともつながり始めたように思います。大船渡のワイナリー(スリーピークス)で働いている宮川広平(第28回移住者インタビュー)君ともつながりました。彼とは小麦さんと出会う前に一回会ってはいたんですけど、改めてつながり直してより関係が深くなったような気がします。大船渡って結構、移住者同士のつながりが強いイメージがあって、やっぱりこういうふうに移住者同士が交流できる環境があるのは良いなと思いました。

逆に、今思っているのは、広田にも移住者を呼びたいんですよね。SETのメンバーはほとんどが移住者ですし、広田にも大船渡や住田の移住者の方々に来てもらって、地域で頑張っている若い人たちがつながれるイベントみたいなのを開催できたらいいなと思っています。



SET の活動の一環として、葛巻町でのフィールドワークをしているときの様子

—大船渡市に移住してから印象深かった経験や思い出はありますか。

こちらに移住してからせっかくと思い、ワカメ漁やウニ漁の手伝いをするようになりました。お手伝いと言ってももちろんそんなに楽なものではなく、朝がすごく早かったり船に乗っていたりするので、大変だなと思うときもあるんですが、まちの漁師さんと一緒に船に乗っている話しながら携われるので、その時間が良いなとも思います。

それで、何が印象に残っているかと言うと、次の日に漁が行われるかどうかというのは天候によって決まるので、前日もしくは当日の朝にならないとわからないんですよ。つまり、次の日の午前中のスケジュールが見えてこない（確定しない）。最初は、自分の生活リズムが天候によって左右されるのが大変だなと思っていたんですけど、それだけ自然と一緒に生きていくという感覚を持つようになって、それが自分の中では新しい感覚でした。自然というのはどうしようもないもので何が起こるかわからないので、それを見越して、なるべく午前中には打合せなどの重要な仕事は入れず、簡単な仕事を入れるといった工夫をするようになりました。

そういう自然というか、地域の特性に合わせて自分の生活リズムが確立されていったように感じます。自然に抗っていても仕方がないので、身を任せて、その中で自分たちに決められること、できることをしていく。そう考えられるようになった良い機会になりました。

また、ワカメやウニって陸前高田の一大産業だと思っていて、それに自分が携わっているというのがまず嬉しいです。移住してくる前は、まさかそんな生活を送ることになるとは考えてもいなかったもので、そういうふうに地域の人と一緒に産業を支えている、それを通して地域全体を支えているんだと思うと、この地域の一員にようやくなれたのかなと実感できた瞬間でもありましたね。

—地域内での移動手段について教えてください。

車については、SET のメンバーであれば誰でも使える「シェアカー」というのを設けていて、それを使用しています。車によっては、「移住して何年以上の人が使える」とかルールを決めているものがあるんですけど、基本的にはメンバー全員が使えます。仕事のみならずプライベートの用事でも使うことができます。自分で車を予約して使うんですけど、既に予約が埋まっているときは、他の人が使う車と一緒に乗せてもらうこともあります。全員が一台ずつ車が必要かと言われるとそうではないと思うし、そうやってメンバー間で支え合って協力し合っているのも、生活の中の工夫の一つだと思っています。

広田町内は、信号が広田小学校前に設置されているもの一つしかなく、街灯も少なく、道幅も狭いところが多いので、運転の際はちょっと怖いです。野生のシカも出てくることもありますから、よく周りを見て気を付けて運転するようにしています。

それから、移動手段で言うと、車のほかに自転車もあります。歩くのにはちょっと大変な距離の地区に行きたいってなったときに、この自転車が重宝します。それに、もちろん車の免許を持っていないメンバーもいますので、大事な足になっています。

—佐々木さんの現在の活動について教えてください。

現在、SET は交流部、暮らし部、研究部の3つの事業部に分かれて活動しています。僕は交流部に所属しているんですけど、ここで何をしているかというと、主に関東の大学生を高田に呼んで、まちづくりについて一緒に考える関係人口創出事業（ChangeMakerStudyProgram）を行っています。半年から1年くらいかけて最終的なアクションまでやるプログラムで、僕も学生時代にこのプログラムに参加したり、スタッフとして運営に携わったりしました。最近は高田だけではなく、葛巻町でも事業を拡大して実施しています。

それから、雫石町に大学生を呼んで、2週間そこで生活してもらい、自分たちが感じた町の魅力や課題をもとに、最終的にどんな町になればいいのか理想を描いて、それに一步でも近づけるようにアクションを考えるプログラムも実施しており、僕はそのコーディネーターとして関わっています。

今年の7月は、半分くらい葛巻町にいたので、もはや高田と葛巻町の2拠点生活を送っているようなものですね。他にも、大学生たちのコーディネート準備のために、雫石町で事前のフィールドワークをやったり、岩手町でもキャリア教育事業のお手伝いをやったりしているので、もう本当に県内をうろちょろしています。いろいろな地域にお邪魔するので、地域ごとの特色や、地域によっての違いみたいなものを感じることができて面白いですね。

—SETのメンバーは全体でどれくらいいるのですか。

SET は高田にいる人だけでなく、関東の学生や社会人もメンバーとなっていていただいています。（インタビュー実施日（令和4年9月6日）時点で）メンバーは全体で154名です。現地在住者が25名、関東在住の学生・社会人が129名ほどです。

僕の所属する交流部は15名ほどで、暮らし部も10名以上は所属しています。研究部はまだそこまで大きくなくて、メインで動いているメンバーは3名ほどです。

—佐々木さんの思う陸前高田市のおすすめスポットを教えてください。

黒崎展望台ですね。あそこからちょうど朝日が見えるんですよ。水平線の方から太陽がわーっと上がってくるのを眺めるのが好きです。日中に行っても、視界に収まり切れないほどの海が広がっていて、地球を感じるというか、開放感がすごいです。森をちょっと抜けた所にあって、人の往来もそんなに多くはないので、一人になりたいときや何か考え事をしたいとき、ちょっと行き詰ったときによく行っています。あれだけの開放感を与えてくれる場所を一つでも自分の中で持っていることはすごく嬉しいことだし、自分にとってそういう場所になっているのでとても好きです。



佐々木さんのお気に入りのスポット・黒崎展望台から眺める海の景色

—今後活動していく上での目標を教えてください。

これだけいろんな地域に行ったり、いろんな活動をさせてもらったりしているからこそ、人とのつながりの大切さや、つながりがあることへのありがたさを強く感じています。だからこそ、僕自身、人と人をつなげる「真ん中の人」になりたいという思いがあります。岩手県内のいろんな地域の人同士がつながれるきっかけを作っていきたいです。人と人がつながっている瞬間を目にするとすごく嬉しいですし、そのつながりからまた新しい何か生まれるのかなと思います。自分が「真ん中の人」になって、皆さんに人とのつながりを楽しんでもらいたいし、そのつながりを通して「あの地域に行ってみたいな」って思いを持ってくれるようなきっかけづくりをしていきたいです。

—移住しようと考えている人に対してメッセージをお願いします。

僕自身、学生時代に足繁く高田に通っていたこともあって、既に高田の人とのつながりを感じることができていたからこそ移住できたのかなと思っています。移住を考える上で、まったく知らない土地に一人で行くとなると、やっぱり少なからず不安はあるじゃないですか。だから、移住先の地域の人々の温かさやつながりを自分の中で一個でも感じられると、自分がその地域で生活するイメージがより鮮明に湧くんじゃないかなと思います。例えば、何かあったときはこの人に頼ろうとか、この人が困っていたら自分も助けようとか、その人と一緒に暮らしているっていう

感覚が湧くと思います。

ですので、すぐに移住したいというのであれば、何度か高田に足を運んでもらって、緩やかに地域の人とのつながりを作っていく、それを感じることができてから移住するのもいいのかなと思います。

僕たち SET も、東日本大震災をきっかけに立ち上がった団体で、そこからもう 11 年以上広田町で活動させてもらっている、地域との強い結びつきができていると自負しています。その結びつきを活かして、例えば民泊といった、人との暮らしや地域での暮らしを体験できる事業も提供していますし、僕たち自身が移住してきた身でもあるので、移住者ならではの不安とかもすぐわかります。ですので、難しく考えすぎずに僕たちを頼っていただけたら、全力でサポートします。高田に来たいと思ってくれる人がいるということがとても嬉しいですし、その人のためにもなりたいので、ぜひ声をかけていただけたらと思います。